

IV. 国語ドリルの特徴を生かした使い方

「国語ドリル」は、漢字・言葉・読み取りのさらなる定着をねらう教材です。それだけに、学習過程のどの段階で使うかを考えることが必要になります。

例えば、「言葉の意味」や「言葉の使い方」に着目する頁は、単元の途中で使用する場合と単元の最後で使用する場合が考えられます。

のびて たおれて 休ませて かわって とんで

60 国語ドリル 国語ドリル 国語ドリル

たんぼぼのちえ

ほか 24-33
なまえ

たんぼぼのちえ 国語ドリル 国語ドリル 国語ドリル
月 日
てん 日
光2・上

14

ことは

たんぼぼのちえ

1 ことはの いみを から えらんで、きごうを
書きましょう。

① ちえ () ア 小さくちぢむ。
イ かんがえたりするカ。
ウ 風がつよくふくこと。
エ ものがすこし水をふくんで
いること。
オ 生きていくためにひつよう
なもの。

② すぼむ ()

③ しめり気 ()

④ えいよう ()

たんぼぼのちえ

2 ()にあう ことはを、 から えらんで書きましょう。
1 つ 15 かん

① 花の色がだんだん () いきます。

② ぐったりとじめん () しまいます。

③ 花のじくがぐんぐん () いきます。

④ わた毛がふわふわと () いきます。

途中で使用する場合は、文章で出てきた言葉を振り返り、その意味や使い方を理解して、再度本文の読みに生かそうとする意図での使用となるでしょう。

最後に使用する場合には、学習を通して学んだことを整理することが目的になります。ドリル学習の後、子どもたちのノートに、『えいよう』という言葉を使って文を作ってみよう』といった学習を付け加えてもよいでしょう。

V. まとめ

子どもたちの学びを「主体的・対話的で深い学び」とするには、日々の授業の繰り返しによるしかないのです。そのためには、「くりかえし漢字ドリル」「国語ドリル」「国語テスト」教材の特徴を生かした使い方が有効な手立てとなります。また、同時に、国語科としての「資質・能力」「見方・考え方」を習得させることができます。是非、各教材の特徴を子どもたちの「学習過程」に取り入れていただければと考えます。